

第14回 しあわせ倍增・行革推進プラン市民評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成28年8月4日（木）午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 場 所 浦和コミュニティセンター 第14集会室
- 3 出席者 <委員>
源 由理子委員長、長野 基委員長職務代理、内田 雅巳委員、
江渕 多都子委員、大内 洋委員、岡田 晴美委員、金友 清三委員、
坂根 伸江委員、島田 栄子委員、田矢 徹司委員、中村 正樹委員、
吉田 浩士委員

<事業所管課>
大宮盆栽美術館：柳橋副館長、渋谷主幹

<オブザーバー>
観光国際課：柳田副参事

<事務局職員>
都市戦略本部：濱里総合政策監
都市経営戦略部：中野参事、小島副参事、石田主査、盛月主査
行財政改革推進部：真々田部長、溝参事、大砂主幹、吉田主査、
宮澤主査
- 4 議 題 重点審議事業の審議について
- 5 公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴者の数 0人
- 7 審議した内容 別紙のとおり
- 8 問合せ先 都市戦略本部 都市経営戦略部
電話 048-829-1035
FAX 048-829-1997
E-mail: toshi-keiei@city.saitama.lg.jp

「しあわせ倍増・行革推進プラン」

市民評価委員会

平成28年8月4日（木）

さいたま市都市戦略本部都市経営戦略部
行財政改革推進部

午後6時30分 開会

○事務局

皆様、改めましてこんばんは。本日もお忙しいところ、またお暑い中お集まりをいただきまして本当にありがとうございます。

これより第14回しあわせ倍増・行革推進プラン市民評価委員会を開会いたします。

事務局の行財政改革推進部の溝でございます。本日もどうぞよろしくお願ひしたいと存じます。

本日、鈴木委員から欠席という御連絡をいただいております。その他何人かお見えになっておりませんが、遅れていらっしゃると思われまので、先に始めさせていただければと思います。

それから、今回も録音や写真撮影等をさせていただいております。御了承のほどお願ひしたいと存じます。

それでは、早速本日の議事でございますが、しあわせ倍増プランの分野「8 文化・芸術」から「38-1 盆栽文化の振興」が重点審議事業となっております。

お手元に盆栽美術館の方で資料をお持ちいただいて配付させていただいておりますので、併せて御覧いただければと思います。

それでは、これからの議事につきまして、源委員長、進行の方よろしくお願ひしたいと存じます。

○源委員長

皆さん、こんばんは。本日もお暑い中、お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

今日は、御紹介がありましたように、分野「8 文化・芸術」、盆栽文化の振興が対象となります。

この文化・芸術につきましては、選定する際に委員の皆様からいろいろ御意見をいただいた中で、盆栽文化の振興ということに関しましては、実はAなんですよね、評価は。しかし、Aとは、それは目標値の来館者ということを達成しているということでございますが、一方で幾つか課題も抱えていました。特にその課題への対応というものが明確になかったということが一つ御意見としてあったというふうに考えております。

また、来年ですか、世界盆栽大会が開かれるということもございまして、これを期に市民の皆様からいろいろな御意見やアイデアをいただいてより効果的な事業の実施という

ころで意見交換ができればいいなと思っております。

暑いのでうちわを使わせていただきながら伺いたいと思います。それでは担当課の大宮盆栽美術館の方からよろしくお願いします。

○大宮盆栽美術館副館長

皆様初めまして。私、大宮盆栽美術館の副館長を務めさせていただいております柳橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、主幹の渋谷も同席させていただいておりますので、よろしくお願いします。

○大宮盆栽美術館主幹

主幹の渋谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○大宮盆栽美術館副館長

では、皆様の貴重なお時間を頂戴いたしまして、当館の事業の審議をお願いする形でございますが、お時間を少々いただきまして、当館のPRをさせていただければと思います。

今、源委員長にうちわを使っていたいておりますけれども、併せて幾つか資料を配布してございますので、それについて簡単に説明させていただきます。

まずこちら「ジンシャリ」と申します。こちら当館が定期的に発行しておりますニューズレターでございます。見開き4ページの内容で定期的に発行しております。

次に、こちら両面刷りでございますけれども、現在継続的に行っている当館のいわゆる企画展のチラシになっております。

まず「ブルーアンドホワイト」、こちらは昨日8月3日までの期間で展示させていただいたものでございます。裏面が明日から8月31日まで展示しております「山水涼景」と申しまして、盆栽とあわせてこういう鑑賞石の世界を皆様に御覧いただくという展示でございます。

さらに、企画展という形での「夏休み子どもぼんさい美術館」ですね、夏休み期間中ということで、今集中的にお子さん向けのこういう企画でさまざまなワークショップを行って来館者の増加に努めているところでございます。お子様もしくはお孫さんがいらっしゃいましたらぜひ御来館ください。

2色刷りの方が「ゆかたde盆美」、これも毎年行っている事業でございます。夏の暑い中、浴衣もしくは和装で御来館いただいて涼しいお姿で盆栽などを見ていただくという企画です。そういった服装でいらしていただければ観覧料は無料という形で行っております。

また、「ゆかたコンサート」ですね。8月11日に2部構成で行いますので、皆様方お越しいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

最後になりますが、先程委員長からもお話がありました「第8回世界盆栽大会inさいたま」のチラシをお持ちしました。こちらにつきましては、来年4月27日から30日にかけて開催されますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上、お時間いただきましてありがとうございました。

それでは、早速ですが、事業の説明に入らせていただきます。お手元に、資料1と当館の運営の概要のカラー刷りの資料をお渡ししてあるかと思いますが、資料1の重点審議調書の方からお話しさせていただきます。

盆栽文化の振興ということで、平成27年度の内部評価ではAとさせていただいたものでございます。

この平成27年度の数値目標に対する達成状況でございますけれども、まず数値といたしまして、企画展及び特別展を計16回行うとともに、学校教育や各種団体との連携により学校校外学習指導などを行い、年間来館者数が平成24年度比約49%増の7万3,717人となりました。そして、国際盆栽シンポジウムを開催し、世界盆栽大会の機運醸成を図るなど、各種事業の達成状況に基づきまして、Aとさせていただいたものでございます。

次、達成手段でございますけれども、簡条書きさせていただいております。企画展14回、特別展2回、そして盆栽普及事業、こちら講座、講演等でございますが、3回実施、2,989人の参加という形です。

次に、館内イベントの開催、盆美茶会、これは2階に講談室がございまして、そちらでのお茶会を開催します。またロビーコンサート等の開催でございます。

そして国際盆栽シンポジウムの開催、来館者数は7万3,717人となっております。そのうち外国人の来館者数が4,165人でございます。

さらに、館外イベントといたしまして、出展事業で東急ハンズでの盆栽カフェ等のアウトリーチ活動、こちらでは3万7,413人の来館者といえますか、参加者を得た形でございます。

そして次に、シニア世代の普及活動、こちらはボランティアがおりまして、18名を抱えております。各種ワークショップや団体への解説で活躍いただいております。

次に、講演会の開催、大きなテーマの特別展といたしまして、秋と春に行っております。まず秋の特別展が「盆栽につもる雪ー「鉢木」物語の世界」、そして、春の特別展が「大

宮盆栽村の歴史展Ⅲ」、これら大宮盆栽村の歴史を系統立てて行っているものでございます。

次に、工夫した点でございます。

美術館でございますので、宣伝というものが一番大きな内容を占めておりますが、そういったことで魅力ある特別展・企画展ができるように計画・実施をいたしました。

また、発信という形では、フェイスブックや館外のPRなどを通じて広報活動を行っております。

そして、普及活動の一環といたしまして、土曜チャレンジスクール盆栽講座の実施校を平成26年は5校、そして平成27年度は7校と増やしております。

また、同じ区内にあります北区の感謝デーで盆栽ワークショップを行うわけですが、こちらでは定員を超える応募があったため、より多くの方に参加していただけるよう追加の回を設けました。こちら当初1回の予定でしたが、3回実施した形になります。

次に、チラシの関係ですが、両面印刷にするなど経費の削減を行いました。

また、東急ハンズとの共催によるBONSAI CAFE、コクーンシティでの「<盆栽>の物語」展の出張展示、またステラタウンでのパネル展示、さらにJR東日本大宮支社と連携した川越・大宮スタンプラリーの開催など民間業者の協力などにより事業費をかけるPR活動を実施した次第でございます。

最後に、平成28年度に向けての課題・分析による改善点でございますけれども、まず特別展の2回の開催ですが、こちらの1回は世界盆栽大会を記念して行うということで、関連講座を実施する予定でございます。

また、2点目といたしまして、(仮称)盆栽アカデミーですが、平成28年度はカリキュラムやテキストの作成、講師の選定、実習場整備等の準備を行い、平成29年2月に開設に向けて準備を進めております。

資料1につきましては、以上でございます。

続きまして、カラーの方に移らせていただきます。

こちらは、大宮盆栽美術館の運営ということで、まとめさせていただいたものでございます。

まず1ページでございますが、事業概要という形で、今後後段のページにはまず一つとして大きく分けまして、大宮盆栽美術館の概要、そして2つ目として、実施事業、これは企画展、盆栽講座、イベント、そして3として、広報活動という形で大きく3つに分けま

して内容の説明をさせていただきます。

まず、大宮盆栽美術館の概要でございます。

当館は盆栽文化振興の核となる施設として、世界に誇る盆栽の名品の展示などによる盆栽文化の紹介などにより、国内外に向けて情報を発信する施設でございます。

また、盆栽に親しむ機会を提供することにより関心を高め、盆栽文化の振興を図り、盆栽を介して国際交流や愛好家などと交流の促進を図る施設として、平成22年3月28日に開館いたしました。今年度7年目を迎えるまだまだ新しい施設でございます。

次に、下段でございますけれども、組織図でございます。

当館はスポーツ文化局文化部に属しております。館の組織でございますが、館長以下御覧のような組織になっておりまして、合計11名での運営でございます。

大きな運営方針として掲げてございますが、まず1つとして、盆栽に係わる研究センターとしての運営でございます。盆栽の歴史や意義など多様な観点から研究してわかりやすく公開し、講座、講演会などの普及事業を開催するという内容でございます。

2点目といたしましては、さいたま市の新しい観光拠点という柱でございます。こちらは盆栽のすばらしさに手軽に触れていただくという内容でございます。

3点目が盆栽産業活性化の一助という柱でございます。多くの方が盆栽に親しむきっかけをつくることで、さいたま市の伝統産業に位置づけられております盆栽の活性化を図るのが大きな柱でございます。

続きまして、ページをおめくりいただきますでしょうか。

④でございますが、当館の収蔵資料の内容です。盆栽につきましては、現在117点、盆器が341点、水石68点、卓が65点、絵画資料が171点、歴史資料47点という収蔵状況になっております。

⑤が入館者数のデータでございますが、まず左側が平成27年度の月別の来館者数の棒グラフでございます。右側が年度別の来館者数の推移でございます。おかげさまで御覧いただいておりますとおり年々右肩上がりで増加しており大変うれしく思っております。

続きまして、下段が来館者の動向です。こちらは平成27年度の入館者のアンケート調査の実施結果に基づいて作成させていただいております。

まず、上の表でございますけれども、こちらは来館者数の市内、県外等の色分けの構図になっております。市内からの来館者数の割合が38.1%でございますが、県外からも39.3%ということで、県内外大体同数となっております。

次に⑦、美術館を知った手段でございます。最も大きなものとしたしましては、知人、友人からの口コミ等が最も割合が大きいという形です。

ページをおめぐりください。

上の段ですね。2-1 実施事業、こちらは企画展についてでございます。6 ページ目でございます。企画展、こちらは14回行っております。

次に、特別展が2回、先程御説明させていただきました秋の特別展、春の特別展の2回という形でございます。当館合計で年間で16回の企画展、特別展を行っております。数としてはかなり多いのかと思っておりますが、その背景といたしましては、盆栽というのは生きものであるとございますので、長くギャラリー等に展示しておくことが難しいものがございます。そのため週がわりで展示作品を入れ替えているということがございますので、こういう形で年間通して多数の展示等を行うという形となっております。

続きまして、下段7ページでございますけれども、こちら盆栽講座についての内容です。各種盆栽講座につきましては、年間で103回実施いたしました。具体的には盆栽ワークショップ、子ども向け盆栽ワークショップ、盆栽実技講座、盆栽相談デー、盆栽文化講座などがございます。

続きまして、8 ページを御覧いただけますでしょうか。

さまざまなイベント等の実施というものでございます。ロビーコンサートにつきましては2回、盆美茶会、ゆかたde盆美、BONSAI CAFEなどを行いまして、多くのお客様に知っていただくような内容を行って、年間通しましてPRを行っております。具体的には近隣の商業施設とコラボいたしまして、BONSAI CAFEを実施する、また地元企業との共催でコンサートを行うという形で、さまざまな企業、そして団体とコラボすることによって事業費をかけないでPRするという心掛けております。

続きまして、9 ページの方御覧いただけますでしょうか。

こちらは広報活動でございます。

各種メディアの取材対応ということで、主な一覧表という形でテレビ、雑誌、新聞等の取材を受けたことでの内容を載せさせていただいております。特に10番、雑誌ということで、航空会社のスカイマークの機内誌に平成27年度は取り上げていただきました。機内誌といいますと狭い機内の中でやはりなかなか皆さん時間をもて余すということで、必ず一度はお手に取って御覧になられていると思いますので、こちらにつきましては大きなPRになったかと考えております。

また、余談でございますが、今年度もANA、全日空の方からも取材を受けまして、先日撮影が終わりまして、国内線では10月から機内の方で流れるということを伺っております。また、国際線は来年に放送されると伺っていますので、つけ加えさせていただきたいと思っております。

それでは、10ページに移らせていただきます。

こちら費用対効果ということでございますが、1がボランティアの導入、先程も御説明させていただきましたが、18人の方に活躍していただいています。主な活動としては、館にいらした方の団体のガイドということで、平成27年度につきましては179回、4,888人、延べでいきますと185人ですが、こういった方々へのボランティア活動をしていただいております。また、当館は、外国の方にも多くいらっしゃいますので、そういった方々に向けての研修ということで、外国語の研修も実施しております。外国の方につきましては、年間72カ国及び地域から4,165人の方が来館していただきました。

次に、下段、11ページでございます。

新たな取組というところでは、1つは広報の充実、2つ目としては、(仮称)盆栽アカデミーの開催、そして、3番目といたしまして、盆栽文化の普及事業を行っております。

ページをおめくりください。

具体的な内容でございます。まず1、広報の充実は、盆栽並びに大宮盆栽美術館を国内外に発信するために広報の充実が必要ということで、実施する内容でございます。具体的には御覧いただいているような内容でございますが、日本語、英語併記のパンフレット、ガイドブックを作成、周知を心がけております。

次に、その広報の充実でございますけれども、具体的には外国人へのPRを重視することです。そして、その中ではフェイスブックを開設しております。フェイスブックの開設によりまして情報の発信を行い、現在2万1,000のいいね！をいただいております。また、外国人のお客様の誘致の情報発信としましては、各種盆栽雑誌への情報の提供、さらに東京都内にパンフレットの配置ということでございます。東京タワー、羽田空港、旅館、ホテル等に単にパンフレットを送るのではなく、当館の職員が実際にさまざまな施設に赴きまして、館の紹介、PRを含めましてこういったパンフレットを置かさせていただいております。

続きまして、14ページの方に移らせていただきます。

こちら(仮称)盆栽アカデミーの内容でございます。

この開設の経緯につきましては、平成25年度からその調査を行いまして、平成27年度には事業化計画の策定を行いました。そして、平成28年度、募集要項の作成、初級・中級コースのテキストの検討、特別講座、開設記念講演会の開催を行いまして、平成29年度にまず日本人向けの初級・中級コースの開設、平成30年度には在住外国人向け初級・中級コースの開講、さらに平成29年度、平成30年度のコースを踏まえまして、平成31年度には、外国人向けの初級・中級コース、日本人・在住外国人向け上級コースを開講するという形の流れでございます。

続きまして、下段15ページでございます。

盆栽文化の普及事業ということで、当館では子ども向けの盆栽ワークショップを開催しております。大宮盆栽村に近い小学校ということで、植竹小学校、大宮北小、大宮南小では、現在生徒さんがミニ盆栽を育てているというような機会がございますが、まだ他の区では普及が進んでいないというのが今の現状でございます。そういった中で、ほかの小学校にもさまざまな盆栽と出会う機会を多く普及する活動を行う計画でございます。

次のページに移っていただきますでしょうか。

新たな事業として、先程の学校以外の小学校並びに公民館などでのワークショップを実施しております。盆栽技師や盆栽職人、またボランティアが出張いたしまして子ども向けに盆栽ワークショップを開催するという内容でございます。

下段の17ページでございますが、事業の展開内容をこちらでお示しさせていただいております。これまでは北区を中心とした3校での実施でございましたが、各区で広めたいということで、平成27年度に続き今年度もこの事業を進めております。

以上、簡単でございますが、当館の事業の説明でございます。

○源委員長

ありがとうございました。皆さんの方から御質問ございますか。

○大内委員

御説明いただきまして幅広い活動をなさっているのはよくわかりました。これと別にこちらの資料、以前課題とか問題点とかお書きになっているかと思うんですが、この課題を拝見しますと数年後に運営が厳しくなりそうに読めるんです。後継者問題とか人の問題で。そういった点で現状と、それから3年後、5年後を見据えたときに今抱えてらっしゃる課題がクリアされつつあるのかというような点についてお伺いしたいんです。

○大宮盆栽美術館副館長

現在、大宮盆栽村には大宮盆栽協同組合という形で6園で組合を形成しておりますが、おっしゃられたとおり各園とも高齢化並びに後継者不足という問題が生じつつある現状でございます。

盆栽産業の活性化というのが当美術館の一つの大きな柱でございますので、当然それらの内容、課題に対してこれからもさまざまな試みをする形でございますけれども、具体的にはまず日常的な管理ですね、今委託という形で大宮盆栽協同組合の方に委託を行っておりますけれども、将来的には大宮盆栽美術館が直接行えるようにしたいと考えています。

また、先程も申し上げましたが、仮称でございますけれども、盆栽アカデミーの開設に当たりまして、コースを受講していただく方々に盆栽の普及の裾野を広めるような形で将来的な活性化を考えていきたいと考えております。

○大内委員

拝見すると喫緊の課題と読めたんですね。その喫緊の課題に対して仮に10人募集して3人来たよとかそういった状況はいかがでしょうか。マンパワーを獲得するような活動をなさっているかなさっていないのか。端的に言うとそのような質問です。

○大宮盆栽美術館副館長

将来的には自前の技師を増員しまして、美術館として盆栽の育成、管理というものを進めていきたいと考えています。

○田矢委員

事業として考えた場合の数字がないんですけれども、いわゆる損益というんですか、売り上げとか経費とか、毎年市としてどのぐらい補填されているのかをお伺いしたいんです。

それと、さいたま市において盆栽産業に従事されている方がどのぐらいいらっしゃって、どのぐらいの産業規模なのか、もしわかれば教えてください。

○大宮盆栽美術館副館長

事業費の関係ですか。平成27年度につきましては、予算額で言いますと。

○長野委員長職務代理

いや、会社として6園あるということなので、6園がどれぐらいの売り上げ規模を持っていて合わせてどれぐらいのいわば金回りを。田矢委員の御質問は、産業として盆栽はどれぐらいの金箱を持っているのかということ。

○田矢委員

質問を2つさせていただいて申しわけありません。1つ目はこの盆栽美術館の事業とし

ての損益、2つ目はさいたま市における盆栽産業の規模。どのぐらいの方が従事されていてどのぐらいの規模なのか、概算でいいんですけれども。

○大宮盆栽美術館副館長

美術館としての事業、年間の予算はすぐ出ますが、お示した方がよろしいですか。

○長野委員長職務代理

損益なので、予算を投入して来館者数等と合わせての入場料がありますので、それが赤か黒かというのが。

○大宮盆栽美術館副館長

それは決算でよろしいでしょうか。

それでは平成は27年度の決算でいきますと、よろしいでしょうか。1億321万84円になります。

○田矢委員

これは収入ですか。

○大宮盆栽美術館副館長

これはいわゆる支出で決算額ということです。

○田矢委員

収入と支出があって損益があると思うんですね。収入は多分株式会社ではないので、その収入の中に補助金が入っているかもしれないので、あれば内訳を。公会計を使ってそうになっているかもしれないんですけれども、大体どのぐらいなのかということだけ、100万単位で結構です。

ちなみに私、数年前に行ったのですがすばらしかったです。桜がちょうどありましたね。

○源委員長

チラシを拝見していると、盆栽は奥が深そうですね。

○田矢委員

行ってみたら圧巻ですよ。すばらしい盆栽が幾つもあって。

○大宮盆栽美術館副館長

まず歳入の方でございますけれども、よろしいでしょうか。2,170万94円になります。先程の支出の方1億321万84円でございます。黒字か赤字かということと言うならば当然赤字の数字でございますけれども。当館文化施設という形でやっておりまして、まず文化活動普及という面で捉えていただければと考えています。

○源委員長

ではもう一つ、さいたま市における盆栽産業。

○大宮盆栽美術館副館長

そちらにつきましては大変恐縮でございますけれども、当館美術館として文化活動普及の運営という形でやっておりますので、産業面での数値につきましては把握しておりません。申し訳ありません。

○中村委員

資料の4ページに来館者数があって、平成27年度は7万人と書いてあります。一方で資料の10ページに外国人の人数は4,100人と書いてある、こちらには期間がないんですけれども、全体の来館者数の中で外国人はどれぐらいあるのかというのが一つ。

○大宮盆栽美術館副館長

今おっしゃった数字は平成27年度の数値になりますが、全体での外国人の割合ということではよろしいでしょうか。

○中村委員

そうすると7万3,000人のうち4,100人と。

○大宮盆栽美術館副館長

はい、約5%程度です。

○中村委員

そうするとこの4,100人に対して資料の5ページにあるようなどこから来たのとか、何で知ったのかというアンケートは、何か結果はあるんでしょうか。

○大宮盆栽美術館副館長

外国の方のアンケートもとっておりますけれども、本日は資料をお持ちしておりません。

○中村委員

外国の人はどういうことを契機に知って来られたのが多いのでしょうか。

○大宮盆栽美術館副館長

基本的には外国の方はウェブサイトですね。フェイスブック等やっておりますので、そちらの平成27年度の内容でいきますと、まずアメリカが1位なんですね。2番目がオーストラリア、3番目がフランス、人数も合わせて申し上げますか。

○中村委員

いえ、美術館を知った手段というのはどういうのが多いですか。その分析結果に基づい

てどのような対応をとっておられますかという質問です。

○大宮盆栽美術館副館長

先程フェイスブックにいいね！という評価をいただいている件数がありましたが、そのいいね！の8割が外国の方からというデータがあります。

○中村委員

美術館を知った手段、とりわけ外国人ですけれども、どういうことで知ったという御回答が多かったのですか。

○大宮盆栽美術館主幹

私から申し上げます。外国人の場合には日本人と違って日本人は団体でバスで来ますが、外国人の場合は大体、小グループです。来日前にどのような方法でチェックをされるかという、やはりウェブサイトとか、いわゆるSNS、副館長が申し上げたようにフェイスブックをチェックをしていらっしゃる方が多いように聞いております。

○中村委員

それはそのアンケートも同じような結果なわけですね。

○大宮盆栽美術館主幹

そうですね。

○中村委員

わかりました。それでウェブサイトでの発信を強化する、あるいはフェイスブックで、フェイスブックはごめんなさい、見たことないんですけども、たくさん出しておられるわけですか。

○大宮盆栽美術館主幹

基本的にはできるだけ毎日情報は更新するようにしております。英語については簡単な説明程度でございます。

○大内委員

写真撮影に制限があると聞いたことがあるんですけども、現状はいかがですか。

○大宮盆栽美術館副館長

盆栽庭園全てを撮影可能という形では現在もしておりません。写真コーナーを庭園の一部に設けております。

○大内委員

やはり肖像権みたいな問題ですか。

○大宮盆栽美術館副館長

当館にお越しいただいた方はおわかりかと思いますが、庭園自体が手狭な部分がございます。撮影などで滞ってしまいますとお客様に御迷惑かけるようなことも生じるおそれがありますので、写真コーナーでじっくりと写真撮影をいただける方法をとらせていただいています。

○大内委員

面積の関係で写真が撮れないと理解したらいいですか。

○大宮盆栽美術館主幹

追加で1点で申し上げると、写真を撮る方というのはどうしても夢中になってしまいます。外国人のパッカーの中にはリュックを背負って来館される方がいるのですが、写真撮影に夢中になり気づいたら盆栽にぶつかって、万が一倒れて枝が折れたとか、危険を防止する意味でも写真エリアについては限らせていただいております。

○坂根委員

盆栽はどういうふうだったら「盆栽」というのでしょうか。生け花と違って植木鉢に入っているというイメージしかないんですけれども。

○源委員長

草もの盆栽もあるんですね。これはプラントとどう違うのか。少し御説明を。

○大宮盆栽美術館副館長

生け花とか例えば普通の鉢植えというのがありますね。一方、盆栽というのは、生ける芸術というふうな表現をされておりますが、そこに一つの大きな山なり森など自然を一つの鉢の中に凝縮したものが盆栽と言われております。

○大宮盆栽美術館主幹

付け加えますと、盆栽というのはまず木があります。それから盆栽の器を盆栽の器と書いて盆器と読みますが、木が盆器におさまっているものが盆栽です。どういう樹種が盆栽になるかと言いますと、なんだというと、実は何でも盆栽になります。大宮盆栽のいいところは、日本列島は細長いですが、関東が概ね地理上の中心になりますので、寒暖の差もあまりなく非常に気候もいいですから、盆栽を育成するには良い環境であるため、樹種の数が豊富なことも大宮盆栽の特長であります。

寒いところでいえばエゾマツとか、暑いところであればまた別のところで非常に樹種の数も豊富なんですね。そこが一つ大宮盆栽の特徴でもあり、盆栽というのはひと

つ今申し上げたように樹種と器に入っていれば盆栽であるということで言われてはおりません。

○長野委員長職務代理

先程田矢委員からの事業費でどれぐらいかかっていますかという御質問で、約1億300万円というお話だった。

○田矢委員

大体8,000万円補填されているということですよ。

○長野委員長職務代理

11名いらっしゃるその人件費全部込み込みで1億円なんていうのは計算が合わないと思ったんですけれども。

○大宮盆栽美術館副館長

人件費は先程の数値に入っておりません。

○長野委員長職務代理

つまり組合への委託費とかが。

○大宮盆栽美術館副館長

それにつきましては先程の決算額に入っております。

○金友委員

ボランティアが18名がいらっしゃいますね。これは団体だけを対象として行われているのですか。

○大宮盆栽美術館副館長

基本的には団体といいますか、基準がございまして、15名以上の団体で事前に予約をいただいた方々を御案内させていただいております。急にいらした方で、どうしても説明を受けたいという場合は職員が対応することもあります。

○江渕委員

こちらに去年の来館者数が書いてあるんですけれども、私、実は招待券をいただいて、それでせっかくさいたま、大宮に住んでいるのだからこれは行ってみようと思って、期限ぎりぎりに行ったという。申し上げにくいんですけれども、盆栽に全く興味がなくて、招待券を貰ったから行ったんですけれども、この来館者数は私のように招待券を使用した入館者もカウントしているのですか。

○大宮盆栽美術館副館長

招待券でお越しいただいた方も含めての数字になります。

○内田委員

この盆栽文化の振興がなぜ重点審議事業になっているのかよくわからない状態なんです。それはそれとして教えていただきたいのは、収蔵資料が盆栽117点なんですけれども、これは盆栽美術館で所有しているものなんですか。それとも6組合から借り出しているものなんですか。

○大宮盆栽美術館副館長

当館の所蔵盆栽数です。

○内田委員

所蔵盆栽、先程も問題になっていましたけれども、やはり盆栽の問題というのは後継者不足、たしか1923年ごろは30園ぐらいあったんですね、盆栽村に。それが今6園になってしまっているというんですよね。それだけ減ってきているから、後継者不足だとかマンパワーが不足してきている。それが問題だろうと僕は思っているんですけども、それについてどうこうというのは、6園の方たちの盆栽が今それぞれあるではないですか。そういったものを盆栽美術館で借り上げるなどして管理運営していくということは考えないんですか。

○大宮盆栽美術館副館長

後継者不足というのは避けて通れない問題でございますので、市として考えていくべき問題かとは思います。

○内田委員

そうですね、でも本当に物すごく大変なことやってらっしゃるので、これ以上何をやって例えば来館者数を増やすのかなとか、かえってそっちの方が疑問になっているくらいで。外国語も覚えようとされている訳ですよ。やってらっしゃることはとても素晴らしいことなので、このままやっていただきたいという気はしますけれども。

○源委員長

文化・芸術政策、文化政策の目的とは何かというところもあるかと思うんですけども、公共政策としてやっていくということですね。

それでは、話を伺って委員の皆さんが課題だと思うことをまず書いていただいて、さらにそれらを解決していくためのアイデアをちょうだいできればと思います。

この評価委員会はこちらの方で査定するというよりも、意見交換をしながら今後の課

題解決等に向けてアイデアを共有していくということでございます。ぜひ担当者の皆さんも同じ土壌に立って意見交換をさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、皆さんよろしいでしょうか。ピンクが課題、ブルーが解決案です。

○島田委員

質問です。盆栽アカデミーって中級とか初級というのは、将来的に後継者になれるような、仕事として技術を積んでいくレベルまで教えるのですか。

○大宮盆栽美術館副館長

初級、中級、そして上級とステップアップしていくような形でのアカデミーを考えておりました、上級コースになりますとそれなりに技術を有するような方が行かれることになります。そういった方々へ実際の盆栽園への業務というか、そういった方向に進めるような形でのカリキュラムが将来的には構成できればとは考えております。来年度は初級、中級から始めますので、そこまでの段階では技術的には難しいかと思えます。

○島田委員

ありがとうございます。今後継者が少なくなっているところにインターンのような感じで入るような流れも。

○大宮盆栽美術館副館長

将来的にはできればと思えます。

○坂根委員

アカデミーの費用は幾らぐらいですか。参加する人はどのぐらいの値段かによって変わってくると思うのですが。

○大宮盆栽美術館副館長

今検討している段階で、実際の数値ははっきりと申し上げられませんが、周辺の盆栽園の状況を勘案しながら適正な価格を決定したいと考えております。

○坂根委員

やはり有料ですよ。

○大宮盆栽美術館副館長

主に実費負担を考えております。

○坂根委員

大体どのくらいを目安に。

○大宮盆栽美術館主幹

当館で毎月大人向けに行っておりますワークショップ1回当たりが主に実費、素材の費用になりますが、2,500円です。現在検討しているアカデミーの1回の費用というのは、1講座当たり3,000円から4,000円と想定しております。初級コースですと8回、中級コースですと14回を想定しておりますので、合計で約3万円から4万円程度と想定しております。

○源委員長

ピンクが少なくブルーが多い。このアイデアどうでしょう、ということでございますので、皆さんと意見交換したいと思います。

後継者の育成、課題があるのではないか、あるいは技術者、後継者不足があるのではないか、ここら辺は何か御意見がありますか。

○吉田委員

先程の盆栽の件ですと、まさにそこしかポイントがないのかなと思っております。経営の話ということで予算の話があったんですけども、予算だけではなく文化という観点からこの大宮の地にあるものを次世代に残すためには後継者がいないといけない。趣味の範囲で盆栽愛好家の方がいらっしゃっても、美術文化としての人材がいなければ趣味の分野も進んでいかないと考えると、いずれにしても後継者の育成が一番の課題ではないかということで上げさせていただきました。

○源委員長

後継者育成というふうに内田さんも書かれていますね。

○内田委員

僕はさっき言ったとおりで、それが一番問題だろうと思っているんですけども、だからどうしたらいいかということですよ。市の方にやっていただくしかないんですけども、基本的には今やってらっしゃることでもかなりカバーされているんですよ。なので盆栽ファンをつくるというのが一番大事だと思うんですよ。盆栽村って要は世界にあそこしかないんですよ。それだけ希少価値のあるものを育成していくためには、盆栽ファンを多く作らなくてはいけない。盆栽ファンを作るにはどうしたらいいか。今までも既に色々なことをやってらっしゃって、これを地道に進めていくしかないのかなと思っています。

○源委員長

将来的マンパワーと後継者ということによろしいですか。それとは限らないですか。

○大内委員

ニアリーイコールです。なぜニアリーかと言いますと、ただ単なる力仕事だけでも構わない分野があるのではなかろうかと、そういう意味で力仕事と後継者と両方の意味を込めています。

○源委員長

マンパワーとして美術館の運営全般という話ですね。それに対して御意見書かれましたよね。解決策。

○吉田委員

解決策です。盆栽アカデミーの充実ですけれども、愛好家を増やすという話もそうですが、盆栽園側に立つと、経営が成り立たないのは単純に採算ベースが合わないのではないかという話があって、盆栽アカデミーを産業としての盆栽のあり方について学ぶ産業振興側の方にシフトをすることができればよりいいのかなということで書かさせていただきました。

○源委員長

資格制度という意見がありますが、これは今の意見と関連しますか。

○島田委員

資格制度みたいなものがあると興味を持つというような。

○源委員長

盆栽技師みたいな。

○島田委員

それが趣味の範囲であっていいと思うんです。一つ質問があったんですけれども、盆栽美術館というのを公でやっているのは全国でさいたま市だけですか。

○大宮盆栽美術館副館長

民間の方が盆栽園を経営しながら美術館を運営しているものはございますが、公立という形での美術館は日本で唯一だと考えております。

○島田委員

だとしたらここで発信みたいな、ここでこの形をつくるみたいなものをそういうのをやってみたらどうかなという意見です。

○源委員長

盆栽アカデミーで資格取得という意見がありました。

ほかにもお話ししていくうちにこれに関連する解決策もあるというか、関連する解決案もあるかと思しますので、先に進みます。

気軽に立ち寄れるイメージがあるとよい、美術館に足を運ぶまで動機づけが、とありますけれども御意見どうですか。

○江渕委員

私はたまたま招待券があったから行きました。

○委員長

それが動機づけになりましたね。

○江渕委員

さいたま市に盆栽美術館があるのも知っていました。でも行くきっかけがなくて。例えばこちらに書かせていただいたように、お茶するところに市民の絵手紙展を盆栽をテーマにしたり、自分やお友達のが貼ってあれば見に行こうかそれで行くきっかけをつくるとか、そういう第一歩が皆さんないと思うので。来館のきっかけがあると気軽に立ち寄れるかなと思います。

○源委員長

ということだそうです。ほかにこちらに関しては何かございますか。

○岡田委員

今回のことをきっかけに一昨日行きました。やはり6年もたつんだなと思いました。できたのは知っていたけれども、見に行くまで時間がかかってしまったし、今日のことがなければまだ先延ばしになったと思います。でも行けばすばらしい。職場が大宮区なんですけれども、職場で聞いてもみんな行ってないと言うので、行くまでの動機づけにいいものがあればと思いました。

○源委員長

ありがとうございます。行くまでの動機づけということの視点ですね。

次に、予算が厳しい中、館として発展の展望、あるいは事業採算の概念、後押し、安定した事業継続というところの問題提起です。

○田矢委員

年間2億円弱の経費がかかっているとすると、本当に永続可能なのか、文化施策としてなぜさいたま市がやらなければいけないのかという意見が出かねないので、そういう観点が必要だと思います。美術館は生き物だと思うので、入れ替えだとか新しいものが入って

こないと美術館として死んでしまう。そこをどうするかというのは大きな課題だと思います。行政として文化を守るいろいろなものにお金が使われている。使うのがだめというのではなくて、続けるのであればその視点を失ってしまうと、例えば予算が苦しくなった、これを切れとかなる。今さいたま市は財政的に厳しくないからかもしれないんですが、その観点を全然ないというのはどうかなというふうに思っています。

○源委員長

それに関して幾つか御提案があったような気がします。運営の民間委託とか、旅行業者とのタイアップ強化。バスツアーのコースに取り入れる。こういった事業として採算をとっていくための取組ということで御意見をお願いします。

○田矢委員

もう一つ問題はその地域の波及効果。盆栽美術館の存在意義を見るときに美術館単体としてだけではなくて、市としてどうなのかということ。観光コースに組み込まれている、組み込まれてないの、組み込んだらどうなの、食事はその辺ですもの、それで単体で赤字でも意味あるよね、そういう観点も必要だよというふうに考えた場合に、例えば旅行会社とタイアップというのはコースに組み込めないのか、機内誌に掲載するとか、盆栽美術館は大宮だからJRの雑誌に載せるというのもあると思います。

究極の問題としては運営の民営化があり得るのかあり得ないのか。もちろん黒字でなくても補助金前提でもあり得ないことではないので、そういうことに絞ってより活性化させる方法はないのかと。当然やろうとしたら5年、10年かかる話だと思うんですけども、そういうのを一つ視野に入れるということです。

○観光国際課副参事

すみません、観光国際課なんですけれども、今バスツアーというお話が出たので。観光国際課、柳田と申します。よろしく願いいたします。

世界盆栽大会を担当してまして、今日はオブザーバーとして参加しております。いろいろとありがとうございます。

バスツアーの件につきましては、大宮盆栽村については幾つか取り組んでいることがあります。私どもも営業に出ておりまして世界盆栽大会が来年4月にありますので、それをきっかけにして、盆栽村だけではなくて例えば、ほかの地域、岩槻の人形ですとか観光資源がたくさんありますので、あとはグルメ、食の部分でいろいろ回っていただこうと思っ

ていろいろな旅行会社に行っているんですけども、盆栽だけですとやはり弱いというの

がありますので、組み合わせを工夫しているんですね。盆栽村にバスツアーで来た場合、今まで海外の方とかも幾つかケースはあるんですけども、それは継続的ではない、単発で来ております。海外の方というのは、盆栽村に来たのは景観、景色を楽しまれて、静かなところがすごく気に入られるんですね。

盆栽園へ行って本当は盆栽の体験がその場でできればいいんですけども、先程マンパワーというお話がありましたけれども、ふらっと行って盆栽の体験ができるコースが今ないので、インストラクターという盆栽を教えてくれる人たちを大宮盆栽協同組合の方で養成をしてどんどん増やしている状況、要は受け皿をどれだけできるかというのを検討していただいている状況です。

オランダとかフランスとか今ヨーロッパとか、あとは中国、台湾などもすごい盆栽ブームなんですね。そういった方にお聞きしますと、盆栽を持って帰るのは土の関係があるので、海外へ持ち出しができない、持って帰らなくても体験はしたい、作って触りたいというのがすごく皆さんおっしゃるので、そこまでのものでもいいのかなと今企画をしている段階でございます。

○源委員長

ありがとうございました。

御紹介がありました。来年の世界盆栽大会、4年に一度ですね。

課題としては、後継者の育成、事業化、もっと気軽に行けるようなというのが上げられていて、さらにこういうのはどうでしょうかということで御紹介をいたします。

こちらはマンパワーに関係してですか、他の就労支援事業との連携。

○大内委員

この冊子の中で就労支援事業を総なめしてみたんですけども、ふるさとハローワークの拡充とか女性の再就労支援とか、青少年の居場所事業とか引きこもりのとか全部で8個ほどあるんですが、そういったところに声をかけたらやってみたいという人がいるのではなかろうかということで、そちらの御担当の部署として労せずして声をかけただけで人が獲得できるのではないかなというような思いで他部署との連携ということを書いてみました。

○大宮盆栽美術館副館長

盆栽の手入れについてのマンパワーということでよろしいですか。

○大内委員

それもそうなんですけれども、単なる力仕事だけだったら盆栽を知らなくてもできます

よね。そういう意味で技術と筋力を分けて考えると、そういう意味です。

○大宮盆栽美術館副館長

盆栽というのは力仕事も含めて長年の経験と勘、修行を経て管理を行います。ですから明日来ていただいてすぐ手入れができるかということ難しいと思います。

○大内委員

展示している盆栽を入れ替えしたら景観が大分変わってまた違うわ、みたいな感じが出ますよね。入れ替えるだけだったら力さえあればできますよね。おじいちゃんではしんどいかもしれないけれども、そういった意味です。

○大宮盆栽美術館主幹

人材が不足していますので、ありがたい御意見をいただいたと思いますが、当館では、事務職員の場合、盆栽に触れることは基本的にはできません。盆栽技師または委託業者であります大宮盆栽協同組合の職員が盆栽の育成管理をしております。

○源委員長

そういう世界があるということですね。ありがとうございます。

次の提案にまいります。ロボットスーツ。

○大内委員

これはまさに今のお話です。職人さんが御高齢になって力が弱くなってきたときに、介護ロボットみたいなものがありますよね、あのようなものを装着したらと思いました。値段も調べたんですけども、介護ロボットは数百万円するのですが、パナソニックさんから出たものは50万円ぐらいであります。広告宣伝費はもらってありません。

○大宮盆栽美術館主幹

当館では、盆栽の移動につきましては、手で運んでいるだけではなく、手動式の台車も使用しております。盆栽の管理をお願いしている大宮盆栽協同組合からもそういった台車の台数を増やしてほしいという話もございます。高齢化で職人さんも重い盆栽の移動が負担になるとの話もありますので、機械等の使用については今後の課題かと思っております。

○源委員長

もしかしたらロボットスーツが効果的かも、というお話です。

次に、植木のまち川口と相乗りをしたらどうかと。

○坂根委員

川口も後継者不足で悩んでいます。埼玉県は土がいいということで、日本の桜はほとん

ど川口の苗木から行っているというのは有名な話なんですね。大きい木と小さい木ですけども、植木に興味がある人はこっちにも興味があるのではないかなと思ひまして。

○源委員長

連携とかということですか。

○坂根委員

そうですね。バスツアーにしても近いので。

○源委員長

もう一つ今の意見に関連して市内外の他施設との連携というものがありますね。交通博物館とか。

○田矢委員

発想は同じで美術館単体としてではなく、相乗りのキャンペーンとかスタンプラリーとかやられているのかもしれませんが、要は地域で連携という発想がないと単体だと厳しいかなと思ひています。

○源委員長

それもさいたま市だけでなくて近隣。

○田矢委員

皆さんそうだと思いますけれども、盆栽にいきなり関心ある人は多くないと思ひます。ガーデニングや花に興味をもつても、いきなり盆栽とはいかないと。盆栽美術館は行ってみれば確かに良かったんですけども、行くきっかけがないとなかなか行かないので。だったら何かに組み込むとか。チラシを置くだけだと関心のない人はチラシを見ても来ないので、そういう工夫が必要ですよね。

○源委員長

ほかのところと連携してやっていくということかと思ひます。今チラシというのも、主要駅に置くと目につくところですよ。

○金友委員

先月盆栽を見に行かせていただいたんです。東武の大宮公園駅で降りたんですけども、どっちへ行っていいかさっぱりわからないんですね。駅員さんに聞いたらこれを見てくださいと地図をくれたんです。私は盆栽を見に行くんですけどもと言ったんですけども、もらった地図はスタジアムなどほかの施設も入っている。こんなもの必要ないと思ひますね。土呂駅の方はどうなっているかわかりませんが、簡単なもので結構で

すから、わかりやすい地図を駅に置かせてもらわれたらどうでしょうか。

それで館内へ入ったんですけれども、私素人なものですから何が何やらわからない訳です。先程の御説明でボランティアの方がいらっしゃるということなので、団体しか扱ってないということですが、館内に1人ぐらい説明の人がいらしたらどうかと思いました。

○大宮盆栽美術館主幹

御覧いただいた方は御存じだと思いますが、当館は規模的には比較的小さい美術館の部類に入ると思います。年間来館者数7万人が多いか少ないかというのはありますが、確かにもっと一日あたりの入館者が来ればおっしゃるようにボランティアを常駐させて随時ガイドというのも小グループでもできると思います。現在はそこまではできてはおりません。ただし、ゴールデンウィークの時期に、大盆栽まつりというイベントが5月の3、4、5日でやっておりますので、その時期はボランティアガイドを置いて随時ガイドを日本語、英語で行っております。ですので、委員御指摘のようにもっと日常的にガイドができれば望ましい形であると考えております。

もう1点、道が不案内だというお話は御意見としてはございます。土呂駅にチラシや案内を置いていただき、よく対応してくださいます。

○観光国際課副参事

観光国際課ですけれども、道路がわかりにくいという確かにたくさんの方に御意見いただいて、例えば土呂駅で降りても盆栽美術館がどこか、看板は置いていますがそれがわかりにくいというお話をいただいています。道路の補修も世界盆栽大会にかけてしていきまので、例えば盆栽美術館まで緑色の何かを示すとかそういうアイデアを今出して進んでいるところでございます。

○源委員長

金友さんの視察の甲斐がありましたね。

○大宮盆栽美術館副館長

先程委員がお示しになったパンフレットですが、大宮公園を起点として周囲1キロ範囲内にさまざまな公共施設がございまして、例えば当館であるとか、県の博物館であるとか、あと氷川神社であるとか、お立ち寄りになった大宮公園駅ですね。さまざまな施設が一体となった大宮公園周辺に皆さんに来ていただくということで、ミュージアムビレッジ大宮公園として、連携して今さまざまな事業を考えておりますので、委員の御意見も参考に

していきたいと思います。

○源委員長

次に、漫画を書いてもらう、撮影範囲の拡大、SNS対応という御意見があります。

○坂根委員

子どもに興味を持ってもらうためには漫画かなと思いました。「ちはやふる」とか「ヒカルの碁」とか、漫画ですよ。隣に漫画会館があるんでそちらで描いてもらうとか。単発でもテレビでやってもらうと子どもたちは興味を持つのではないかなと。

○源委員長

そうすると他の施設との連携に漫画会館も入りますね。

○大宮盆栽美術館副館長

漫画会館も先程説明させていただいたミュージアムビレッジ大宮公園というエリアの組織に入っています。

○大宮盆栽美術館主幹

漫画会館は、当館と同じスポーツ文化局文化部でございますので、漫画会館において販売している扇子を当館で置いたり、日ごろから連携は図っております。

○源委員長

なるほど、では実現するかもしれません。

SNSの対応で撮影範囲、すぐフェイスブックに載せたりするんですね。

○大内委員

結局来館者を増やすには口コミが一番だと思っております、例えば口コミで民間がやっている「盆栽だー！！」みたいなものもありますし、そのようなことが広がっていけばたとえこの事業そのものが赤字でも産業のすそ野として広がればさいたま市の広告宣伝的意義があるかと思えます。そういう意味でSNSでさいたま市を知ってもらったらどうだろうという発想でございます。

○源委員長

みんなすごいですからね。一瞬で世界中に発信してしまうという感じです。

今の口コミという話があります。こちら外国人が美術館を知った手段の分析活用、口コミが多いというクエスチョンがございました。

○中村委員

盆栽というコンテンツは非常にユニークだし、外国人が多分好きになる。既になってい

るのかもしれませんが。ということから、ほかの国内の施設にもあると思いますけれども、瀬戸内海の直島の美術館のような、むしろ日本人よりも外国人の方が知っているようなコンテンツになる可能性が十分あるだろうと思います。むしろ外国人に人気があって日本のマスコミに取り上げられて、埼玉の人も近くにあるから行ってみるかというようなアプローチはかなり現実的ではないかと思います。

○源委員長

海外のテレビ、雑誌への。

○中村委員

僕が直島に行ったときにフランス人がフランス語の雑誌を持ってきて、何でここに来たんだおまえはと聞いたら、こういうフィーチャーされているからここに遊びに来たんだと。外人はそういう動きをするので、数は出ないかもしれないけれども、そこら辺にアピールできるものはないだろうかというふうに思い書いています。

NHKの国際番組に出しているとか国際放送に出しているとか書いてあったので、こういうのは非常にいいアプローチになるのではないかと思います。

○源委員長

外国人向けの発信というのが非常に特徴のある取組なので、盆栽というと、とてもインパクトがあるのではないかということですね。

○中村委員

それは何かやっておられるんでしょうか。

○大宮盆栽美術館主幹

NHKワールドの取材も何度か受けておりますし、昨年にはアメリカの三大ネットワークのCBSという放送局からも取材を受けまして、当館の学芸員がインタビューを受けてそれが全米に放送されたということもございました。ですので、外国人へのアプローチというのは非常に大事な視点だと思います。ありがとうございます。

○田矢委員

ガイドブックというか、ミシュランのガイドブックだとか、そういうのには載っているんですか。

○大宮盆栽美術館主幹

地球の歩き方、その外国人版のロンリープラネットがございしますが、実は埼玉県は1カ所も載っておりません。これは、非常に残念なことでありますが、旅人が自分で記事を投

稿するというものですから、こちらから載せてほしいという訳にもいかないものです。

○中村委員

トリップアドバイザーではどれぐらいの順位なんですか。

○大宮盆栽美術館主幹

トリップアドバイザーでも確かにアプローチがあって、当館も取り上げていただいていると思います。

○源委員長

そういったことが戦略として重要ではないかという御指摘でございます。

次に、小学生や中学生が学校でアサガオ、ミニトマトを植えているのを盆栽にしてはいいかがか。中学生の未来くるワークですか、インターンシップの受け入れ。

○岡田委員

小学生はアサガオ、ミニトマトと学年ごとに当たり前のように栽培するんですが、それは多分文科省の方の指導だったんですけれども、さいたま市だったら盆栽だなんていうふうにできないのかなと思いました。

あと中学生未来くるワークとかさいたま市でやっていますし、高校、それから大学のインターンシップがいろいろ入っていると思うんですけれども、その仲介を美術館でやるという、やっているかもしれないんですけれども、直接盆栽を栽培している園の方で受け入れるのは難しいのではないかなと思うので、そういう方法で触れ合う場ができたらいいいのかなと思うんです。

○源委員長

学校の講座はやってらっしゃると。

○大宮盆栽美術館副館長

冒頭でも説明させていただきましたが、当館で土曜チャレンジスクールの中で、小学生を対象に盆栽の普及活動を行って3年目になります。平成27年度が7校、今年度は8校と徐々に増やしております。さいたま市の伝統産業、伝統文化である盆栽に若いうちから親しんでもらい、盆栽文化のすそ野を広げることを考えております。

○源委員長

どうですか、小学校で育ててもらおうというのは。

○大宮盆栽美術館副館長

1回触れることによって盆栽の良さというのがわかりまして、継続的にやっていただい

ている。例えば、植竹小学校では卒業してからも盆栽に親しんでいただいている生徒さんが大勢いらっしゃいますので、そういった流れがどんどん普及していけばいいかと考えております。

○観光国際課副参事

観光国際課なんですけれども、今すごくありがたい御質問をいただいたんですが、世界盆栽大会が来年ありまして、ここのメインの会場がさいたまスーパーアリーナのコミュニティアリーナというところなんですけど、そこに子どもたちの盆栽を私どもとしても出展したいと思ひまして、市内103校小学校ありまして呼びかけを行ったところ、11校で手が挙がりまして、盆栽づくりを授業に取り入れてマイ盆栽を子どもたちが学年全部で作ってそれを飾るということを行います。ただそれは子どもたちが世界盆栽大会に出展するということが大きな目標です。その次に子どもたちが一緒に盆栽と卒業すると、卒業式に盆栽と出席している学校もありますので、そういうふうに手がけていったら今おっしゃっていただいたようなことが実現できるのかなということがあります。ただそれにはやはり学校の御協力とそれから保護者の方々、お家に帰ってからの管理とかそういうこともありますので、言いかえると、盆栽をきっかけに親子の絆とか家族で会話が増える、親御さんの方が夢中になってしまうという事例もありますので、そういった効果を期待しながらみんなで盛り上げていければいいなと考えております。

○島田委員

岩槻だからと思うんですけど、卒業式に梅の苗木を貰っても困るというお母さんが半分以上いて、盆栽だったらどこでも飾れるのにおっしゃってました。

○大宮盆栽美術館副館長

先程、学校連携事業ともう一つ当館で学校見学と言ひまして、予算は美術館でもちまして市内小学校の社会科見学の一環としてバスで来ていただいて当館を見ていただくことを毎年度実施しております。ちなみに27年度につきましては、バスの利用台数が41台、学校数につきましては15校に見学に来ていただきました。

○源委員長

もう一つ外国人向けのアイデアがございます。在埼玉通訳案内士の活用による外国人来訪者への案内、あるいは外国人向けに何か国語、言葉で表示したパネルを用意する。これは外国人の来訪者の整備がどうかということですね。

○中村委員

上は僕ですけれども、通訳案内士のオリエンテーションで盆栽美術館も入っていました。あと川越と長瀬だったか、というのが入っていておもしろいなと思って見ていて申し込んでないんですけれども。外国人がいっぱい来た、そういう人たちをボランティアで使うことを考えられないのだろうかというアイデアです。

○源委員長

埼玉に住んでいる。

○中村委員

埼玉に住んでいる通訳案内士をただで使えないかという感じなんですけれども。

○源委員長

あとパネルの話ですか。

○島田委員

何かで中国語とか韓国語とかその国の人ができる英語だとやはり片言で理解してしまうのかなと思って、多く来館する人の言葉があれば細かく……。

○源委員長

何か言語があればということですね。外国語の対応というのは先程幾つか取組がありましたけれども、いかがですか。

○大宮盆栽美術館主幹

展示物に対するキャプション、説明書きでございますが、これについては基本的には日本語と英語を併記をする形にしております。当館のミュージアムガイドについては、英語、中国語、韓国語、スペイン語を用意はしておりますが、やはり英語が公用語ということもありますので、今後は英語に特化した形で進めていこうと考えております。当館では、展示が概ね毎週変わりますが、ネイティブにお願いをして英語で展示品の説明書を受付に用意しております。

○源委員長

通訳の方というのは。

○大宮盆栽美術館主幹

埼玉県観光課の通訳案内士の研修ツアーが私どもにも来ていただいておりますので、通訳案内士の方の御案内で、多くの外国の方に当館に来館いただければと考えております。

○田矢委員

音声ガイド案内みたいな、いわゆる人の手当は事実上なかなか難しいので、そういうも

のは予算の関係ですか、当然考えているとは思いますが、すけれども。

○大宮盆栽美術館副館長

音声ガイドにつきましては、英語、中国語、韓国語がございまして、有料になりますけれども、希望があればそちらを御利用いただいております。

○源委員長

下になってしまったけれども、寄附、寄贈の推進。

○田矢委員

文化とおっしゃったので、大体文化というのは寄附と寄贈で成り立つのではないかと思っているんです。愛好家の方が亡くなられたりして、どなたか忘れましてけれども、それを散逸してしまうよりはということで買われたんですね。そういう愛好家がいっぱい持ってらっしゃると思うので、そういうのを推進したり、また運営する中でも寄進というか寄附というか、そういうのは難しいんでしょうか。

○大宮盆栽美術館副館長

当館は生きた盆栽を扱う美術館でございます。寄贈品が美術館に見合うものであれば受けて、当館の所蔵盆栽という形で展示したいと考えております。

○田矢委員

購入予算はないんですか。

○大宮盆栽美術館副館長

年度で購入予算を計上しております。

○長野委員長職務代理

ちなみにこういう大変価値のあるものを寄贈されるときは、税制優遇とかあるんですか。

○大宮盆栽美術館副館長

年間何回かそういったお電話があるんですが、なかなか当館に見合う寄贈品というのは見当たらないのが現状です。

○長野委員長職務代理

仮に寄贈があった場合は当然有価物なんですけれども、税制優遇が働くんですか。社会福祉法人に寄附すると所得税控除になりますし、ふるさと納税すれば寄附のバックが来る訳ですけれども。それに相当する税制度はさいたま市として持ってらっしゃるんですか。

○大宮盆栽美術館副館長

把握しておりません。

○長野委員長職務代理

亡くなられた方の御遺族が寄贈されることで払うべき税のバックとかあり得るんですか。

○大宮盆栽美術館主幹

10鉢、20鉢持っているので寄附をしたいという電話をいただきます。当館としては全てを受け入れることはできません。ただ、美術館にふさわしいと評価されたものを受け入れたことはございます。税制の問題については、その所管に確認する必要があると思います。

○源委員長

全てのカードについて意見交換させていただきました。今日は御覧のとおりブルーが圧倒的に多い。とても期待しているということでございますが、文化施設を公共政策としてやっていく難しさ、例えば採算や維持の問題というのもあります。色々なアイデアが出てきておりますので、ぜひ御検討いただきたいと思います。

では振り返りということで、長野先生にまとめをお願いしたいと思います。

○長野委員長職務代理

本件は文化政策であると同時に産業政策ということで最初の問題設定がありましたので、それは行ったり来たりすることになるかと思っています。御承知のとおり漫画のようにほったらかしたらとんでもない産業に育ったという、50年たったら文化政策でなくて産業政策になったというようなこともございますので、大化けするかもしれないですけども、すそ野を広げるという意味で文化政策としてのアプローチと、産業としてのいわば活力を図るのが両方向で存在したことは間違いないと思っています。

さて、文化政策としては底辺を広げることが最も大きいわけでございます。広い意味で言うファンをつくるということと、それを見る大人向けの話からまたファンになるかどうか分からない子どもを洗脳するといえますか、刷り込みやらで取り込みましようというのがまず一方大きな塊であったとっております。

さて、今度は社会的な発信に関しまして文化政策と産業政策のちょうど橋渡しをする情報発信のことに関しましては、まさに大きなキーワードとしては外国。外国の方向への発信というキーワードと、それから点ではなくて面で発信しようというのが私の理解でありました。

最後の産業に関しましては、これは芸術品としての盆栽とそれから商品、マーチャンダイジングの方のものが両方あって、今日の話だと、どちらかというともマーチャンダイジングの方の議論が多かったような気がしております。美術品としての価値をどう高めるかと

いうことについては、それよりむしろ産業としての担い手、つまり経営者レベルのようなものをどう育てるかというのが大きな議論だったかなという気がしております。

という訳で、黄色のカードが御議論いただいたキーワードを私も拾ったもので、緑は所管課の皆さんから情報提供の補足をいただいたものです。確認しますと、新しい人材は入れるんですか、実は職員しか触れないというような現在の大きな運用ルールがあるので、そこが大きな壁なんだという話。それからファンをつくるということに関しましては、実はもう組合の方でインストラクター育成中でございますといった情報提供があったという話です。それから、ふらっと来た方に対する対応はというと、現在のところ5月のお祭りに関しては、英日両方ガイドで常時対応できますという話があったということでした。

それから、音声ガイドはお金を出せば利用できますよということですね。それから、子ども向けの話、「マイ盆栽」できるんですか、現在は2017年限定対応ですということで、今後の対応としては、教育委員会と学校の保護者の御自身の個々の家庭の問題がありますなんていうふうな補足情報として出たものでありまして、一番最後のところ、文化施策として考えた場合の問題に関しましては、ちょっとこれに関しては大事なものをお預かりする、あるいは寄贈された場合は税制上の問題がまだよく整理できない点があるよとそんなようなことが補足情報としての対応がこれは委員からでございますけれども、出たというまとめになるかと思っています。

というわけで、文化政策として産業政策も含め、これを両にらみで今日は議論したということになるかと思えます。以上であります。

○源委員長

どうもありがとうございました。

ということで、今日は一事業だけでしたけれども、大変意義深い色々な側面からの議論をしていただけたと思います。ぜひ参考にさせていただいて、来年世界盆栽大会もあるということでございますので、これをきっかけにさらなる飛躍をということで、よろしく願いしたいと思います。

それでは、どうも皆さんありがとうございました。事務局の方にお返しします。

○事務局 皆様、本日も御熱心に御議論いただきましてありがとうございました。

それでは、最後にお配りしているもの3点について御説明させていただきます。

一つは議事録でございますが、内容の方を御確認いただきまして、次回の委員会にお持ちいただければと思います。

それから、もう一つ、私ども行財政改革推進の事業で、毎年度さいたま市行財政改革公開審議というものを実施しております。昨年度も御案内させていただいて何人かの委員さんにはお忙しい中をお越しいただきましてありがとうございました。今年は公開審議というのは、市民の皆様からまた市民評価委員会とは別の形で行革等所管課で一応対立構造みたいな形で議論をさせていただいて、その上で市民委員の方から意見をいただくというような催しをしております。これを8月20日、21日土日2日間にわたって今年は大宮のシーノ生涯学習総合センターの方で実施する予定でございます。傍聴という形にはなりますが、御都合がございましたらぜひ御参加いただければと存じますので、御案内をさせていただきます。

最後ですが、次回開催案内でございます。次回の委員会につきましては、8月25日の木曜日、時間と場所につきましては、本日と同じ午後6時30分から、この場所を予定をしておりますので、御出席の方をお願いしたいと存じます。

以上、お配りしたものについて御案内させていただきました。

それでは、以上をもちまして第14回市民評価委員会を閉会させていただきます。

本日も長時間にわたりましてまことにありがとうございました。

午後8時30分 閉会